

出題意図

都留文科大学文学部国文学科のアドミッションポリシーに基づき、受験生の以下の能力を評価することを目的として出題されました。

- 古典から近現代までの文章を読み取るための基礎的な知識を有しているか。
- 思考・判断・表現に役立てられる基礎的な言語リテラシーを有しているか。
- 言語・文学・歴史・社会などについて、幅広い興味や関心を有しているか。

問一

【出題のポイント】

当該箇所の読みと原文に用いられている漢字は、ア ひしょう、イ 様相、ウ 媒介、エ ないおう、オ 予見である。それぞれ完答のみ得点を与えた。なお、イについては「容相」、オについて「預見」も大きな辞書には項目として立てられており、意味が通用するので可とした。

【講評】

全問正答の答案もあったが、意外に少なかった。イ「様相」に誤答が多かったのも意外である。常用漢字の読み書きはことばの運用の基礎なのでしっかり習得しておいてほしい。興味のある新書などを多く読むのも知識を広げるだけでなく、語彙を身につけるにも効果的であろう。

問二

【出題のポイント】

- (1)本文全体のテーマである無常観や有限性の理解
- (2)それを倫理や美意識と結びつけて説明する力
- (3)簡潔にまとめる記述力

【講評】

「～とはどういうことか」と問う本問に対しては、傍線中の「だれが簡単に思い切れようか」の部分を受けて「～は容易なことではないということ」などと解答を結ぶべきところだが、「この世が有限であり、無に等しいものであることを深く自覚し、やさしさや幽玄の美に心をとめること」などと解答している答案が複数あった。この解答では「～とはどういうことか」という問いの趣旨を捉えておらず、表面的な説明にとどまってしまっている。

問三

【出題のポイント】

抜き出した用言の四項目(抜き出し、終止形、品詞・活用の種類、活用形)が正確に解答できているかを見た。誤答があれば一項目につき1点ずつ減点した。

【講評】

- ・「用言」=活用する自立語=動詞・形容詞・形容動詞であることを理解していない人が目についた。「体言」=名詞とともに知っておいて欲しい。
- ・「ひらがなで」という指示を見落とし「知る」と書いた人が多く残念だった。出題文をきちんと読んで解答して欲しい。
- ・「知る」の「活用の種類」は「ラ行四段活用」と活用する行も答えて欲しかった。「あり」が「ラ行変格活用」なのでそれと揃えて解答すべきだろう

問四

【出題のポイント】

- (1)「そうした契機」の具体的内容を本文全体から正確に読み取る力
- (2)それを60字以内に簡潔に説明する記述力
- (3)無常性や共感という抽象的テーマの理解力

【講評】

「そうした契機」については、「かなし」という語についての説明である無常性や有限性への言及だけではなく「やさし」ということばについての説明も必要であるが、傍線部より前の段落のみをまとめたものが多かった。傍線部以降の「やさし」についての説明も含める必要があった。

また、「かなし」の解釈だけでまとめた解答については、問いの文脈上誤りとした。

問五

【出題のポイント】

日本の文学や文化から適切な具体例を挙げ、それを「やさしさ」のテーマと関連付けて考察できるかどうかを問うた。小論文作成にあたっては、以下の力が必要である。

- 作品や文化に対する知識だけでなく、それを自分の主張に結びつける力。
- 筆者の主張を踏まえたうえでの独自の視点や新たな解釈を提示する力。
- 文学や文化の例示を通じて、個性的かつ説得力のある議論を構築する力。
- 的確な構成で論理的に主張を展開する力。

【講評】

「やさしさ」が「弱さ」と結びつくという筆者の考え方をどれだけの確に把握できているかということ。具体例を挙げながら、「やさしさ」という概念を自分の言葉で説明し、その上で自論を展開できているかどうかで答案の良し悪しを決めた。